

# 四季の風だより

春号 平成26年4月20日

田中せいこ社会保険労務士事務所

## 今号のお話し

- はじめまして！
- 生き別れになった兄かも・・・
- 三味線の音色は何色？

### ♪春が来たあ春が来たあどこに来たあ♪

と、歌にもありますが、私たちの町にもいよいよ春がやって来ました！

新たに、新入生になられたお子さんをお持ちの方や、新入社員を迎えられた会社の方も沢山いらっしゃることでしょう。

私の事務所でも、4月より新しいスタッフを迎えました。フレッシュな気持ちで、心機一転、益々頑張っていますので、宜しくお願い致します！！



### はじめまして！



4月から弊事務所で働くことになりました、浦野仁美です。3児の母でもあり、騒がしい毎日を送っています。

最近では6歳になる娘に毎朝服装をチェックされ、「今日かわいい♪」と言われると「でしょ！」と答え一日を気持ち良くスタート。もちろんダメ出しもあるので、気が抜けません（笑）

そんな娘と息子2人も、段々と大きくなってきて、体力がついてきました。私も子供たちについていけるように、体力作りに励んでいます！

前回の3キロマラソンではトレーニング不足もあり、不覚にも息子に負けてしまい、とっても悔しい思いをしました（涙）なので暖かくなってきたし、トレーニングを開始し、息子にまずはリベンジです！

これから頑張っていきますのでよろしくお願い致します！！

### ✿ 生き別れになった兄かも・・・ ✿

春になると、毎年悩みの種となるのが庭の雑草の草取りです。

晴天の4月の日曜日、早朝から夕方まで草を取り続け、すっかりクタクタになって、ソファでグッタリしていました。

そこへ一本の電話が鳴り響きました。

「あのう、私は〇〇と申しますが、田中勢子さんですか？」

聞き覚えの無い男性の声です。少し年配の方の様な声で、近くにお孫さんでもいらっしゃるのか、子供たちが遊ぶ元気な声が聞こえます。

「はい、そうですが・・・」と答えると、「実は、あなたは私の妹ではないかと思い、お電話しました・・・」

「はぁっー?!」

晴天の霹靂とは、まさにこのことでしょうか？私に兄などいようはずも無いのです。新手のオレオレ詐欺なのではないかなと瞬時に思いました。

「あなたは、愛媛に住んでいたことはありませんか？」と、相手が言います。

「いえ、私は秋田生まれで、愛媛には行ったこともありません」

「あなたは、〇〇という姓だったのでは？」

「いえ、そのような姓を名乗ったことはありません。」と私。

「すみません、実はわたしの生き別れた妹が、社会保険労務士事務所に勤めていたと聞いたものですから・・・」

「そうですか、残念ながら人違いです。」そう告げると「すみません」と電話は切れま

した。

受話器を置いた後、しばし呆然としてしまいました。もし電話の男性が私の兄だったら、私は受話器を持ったまま、嬉しさのあまりヨヨと泣き崩れていたのでしょうか……

そうならなかったことが、少し残念に思える、春の夕暮れでした。



### 三味線の音色は何色？



今から 17 年前になりますが、亡くなった父の津軽三味線を譲り受けました。

父は多趣味な人で、刺繍、ボーリング、競艇、ゴルフ、油絵等の趣味を経て、最後は津軽三味線に没頭していました。

もともと、秋田県出身ですから、津軽三味線はとても身近な楽器です。私が幼少頃の記憶では、親戚が集まると三味線を取り出し、飲めや歌えの大騒ぎで、東北地方の民謡が飛び交っていました。

父は三味線については、ひとかたならぬ思いがあったようで、亡くなる直前まで母に「俺は色々な趣味をやってみたけど、三味線だけを一生の趣味にしていくつもりだ」と言って、毎日稽古を欠かさなかったそうです。

そんな父の形見の三味線を譲り受けたからには、何とか弾けるようにならなければと、豊橋の三味線教室に通うこととなったのは、今から 15 年くらい前のことです。

早く上達して、母に三味線を聴かせたいと、私なりに必死で稽古に励んだのですが、弦を押さえる左手の人差し指と小指、そして撥を持つ右手の小指の第一関節が腫れあがり、津軽三味線の軽快なスピードに全くついていけなくなってしまったのです。

病名はヘバーデン結節といって、第一関節が潰れてしまう病気だそうで、治ることはないと言われました。

命にかかわるような病気ではありませんし、日常生活で不便を感じることもそうありません。でも、津軽三味線を続けるには致命的な病気でした。二年程で、津軽三味線の稽古を続けることを諦めました。

もう二度と三味線を持つことは無いと思ってから十数年が経過した先日、豊橋で活動が続けいらっしやる、NPO 法人三河三座の理事長さんからお話を聴く機会がありました。

NPO 法人三河三座は、地域に残る伝統芸能の普及継承を通じた「まちづくり」を目指して、様々な活動を行っている団体です。慶長年間より豊橋に伝わる「吉田文楽（人形浄瑠璃）」を次世代に継承しなければと、理事長はおっしゃっていました。

もともと浄瑠璃好きの私は、すぐに浄瑠璃三味線の先生を紹介していただき、先生の弾く三味線に心を奪われてしまいました。

十数年ぶりに聴く三味線の音色は、心の隅々に沁み渡り、「ああ、これだ！ やっぱり私は三味線を弾きたいんだ」と思う気持ちを抑えられなくなってしまったのです。

83 歳の三味線の師匠に弟子入りし、今日も私は僅かの時間ですが、三味線の弦を弾きます。ヒッフゥミヨイムナと、弦を弾く数を数えながら、美しい音色を出せるよう、集中して何度も繰り返します。

外には、もう殆ど散ってしまった桜の花びらが舞っています。三味線の音の色は、桜の花びらの色のようです。美しく、悲しい音色です。では、ここで一句です。

### 弦はじく 一音ごとに 桜散る

最後までお読み頂きありがとうございました。